

事後評価報告書
(日本-中国研究交流)

1. 研究課題名： 吸収性エアロゾル（EC）と散乱性エアロゾル（OC、金属成分、イオン成分）の分布と化学成分の変化による影響の解明

2. 研究代表者名：

日本側： 東京農工大学大学院農学研究院 教授 畠山 史郎

相手側： Chinese Research Academy of Environmental Sciences, Institute of Atmospheric Environment, Senior Researcher Meng Fan

3. 総合評価： B

4. 事後評価結果

(1) 研究成果の評価について

政治的に困難な状況があったにもかかわらず、日中の同時観測を行うことで中国山東省の観測データを含む貴重なデータを取得したことは、今後の研究の更なる進展につながるものと評価できる。また、参加学生が学会において学生優秀発表賞を受賞するなど、学生による研究への積極的な参画があったことは人材育成の観点から評価できる。

一方で、相手側研究チームとの共著論文が無く、原著論文も2編と少ない点は残念である。また、観測結果の報告だけでなく、エアロゾルの放射特性を推定して放射強制力を評価するという当初の研究計画を確実に推進されることが望まれる。

(2) 交流成果の評価について

政治的に困難な状況であったにも関わらず、中国側研究機関に一月間滞在し研究交流を促進し、データ解析、研究指導を行い、入手困難なエアロゾル発生源である中国のデータの提供を受けることができたことは評価できる。本研究が今後の継続的な日中協力による大気環境研究の一つの端緒となったことは評価できる。

一方、相手国側から日本への訪問が査証取得上の問題により一人のみになり、日本側主催のワークショップがなされなかった点は残念である。観測を同時に行ったこと以外にも、相手国側から日本側への積極的な交流が促進されることが期待される。

(3) その他

本件が多く新聞、雑誌やテレビ等の報道にとりあげられたことは、越境汚染に対する関心の高さを表しており、政治的に困難な状況ではあるが、モニタリングの継続が望まれる。